

# 令和6年度 第11回梅坪台地域会議 会議録

■ **日時** 令和7年2月18日（火） 午後7時～午後8時30分

■ **場所** 梅坪台交流館 2階 大会議室

■ **出席者**

<委員>	岩崎 洋平	岩松 初男	川井 圭子
	杉浦 隆	鈴木 重久	鎮西 和也
	長江 秀昭	山村 史子	依田 武人

<交流館> 杉山 浩子（梅坪台交流館 館長）

<事務局> 松下 誠（地域支援課 副課長） 大平 直樹（地域支援課 担当長）  
吉村 亜美（地域支援課 主事）

■ **内容**

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告・協議事項

（1）地区コミュニティ会議関係について（報告）

（2）地域課題について（協議）

■ **議事内容（要約）**

3 報告・協議事項

（1）地区コミュニティ会議関係について（報告）

・各委員会で来年度に向けた作業（会計資料作成など）を行っている。

（2）地域課題について（協議）

「地域と子どもとのつながり」「子ども会」をテーマに、これまでの地域会議での協議内容や子ども会との打合せ内容を踏まえ、これからの地域会議の協議の進め方について協議した。協議内容は別紙のとおり。

## 今後の協議の進め方について（結論）

- ・引き続き「地域と子どもとのつながり」を未来に残すことが重要と考え、協議を行っていく。
  - ・令和7年4月以降（新年度の役員に替わってから）、関係者との打合せを実施したい。打合せは、主に事務局が関係者と調整し、地域会議委員も可能な範囲で参加する。
- 関係者 ①自治区 ②地区コミュニティ会議 ③地域学校共働本部

## 協議経過（委員の主な意見）

### 【地域と子どもとのつながりについて】

- ・今の子ども会の組織にとらわれず、未来の子どものために協議を進めたい。
- ・子ども会が解散したとしても、子どもが地域への愛着を持ってほしい。そのための活動は続けたい。
- ・多忙を極める現代の子どもたちも、近所の子どもと遊ぶことを大事にしてほしい。
- ・親ではなく、子どもが主体で、子どもを第一に考えることが必要。

### 【子ども会の組織について】

- ・小学校区全体で一つの組織にまとめる案は無し。現在の子ども会単位か、まとめるなら町（自治区）単位が良いと思う。
- ・イベントを小学校区単位で開催するにしても、組織自体は小さい単位が良い。
- ・子ども会役員に報酬を支払うことが必要では。
- ・京町自治区の子ども会運営を、他の自治区で実現できるのか考えてみたい。
- ・子どもを楽しませるイベントの開催方法を学ぶ機会があるとよい。一方で、現役員が学ぶ余裕はないため、イベント会社やボランティア団体に委託するのが良いかも。
- ・子ども会が解散した場合、本当に困るか。登下校の見守りや、お祭りへの協力は、整理すれば子ども会と切り離して考えられるのでは。
- ・子ども会の主体を「親」ではなく「子ども」と考える場合でも、見守る大人は必要。

### 【子どものための活動（子ども会含む）を行う担い手について】

- ・自治区が代わりに担うのは難しいが、どの部分が難しいのか（障壁）を聞いてみたい。
- ・地区コミュニティ会議の青少年委員会は二十歳のつどい運営などを実施しているが、そこが子ども会に関する活動を担うことができないか。
- ・仮に自治区や地区コミュニティ会議の組織に、子ども会に関する役員を設置する場合、役員を選出する大変さは変わらない。
- ・保護者に限らず、熱意のある地域住民（元気な高齢者？）が役員になれないか。